

公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開・ <input type="checkbox"/> 部分公開 <input type="checkbox"/> 非公開
----------	---

令和6年度 第1回浜松市立図書館協議会 会議録

- 1 開催日時 令和6年6月25日(火) 午前10時00分から12時00分まで
- 2 開催場所 浜松市立中央図書館 大会議室
- 3 出席状況 委員：岡田 建志、清水 友理子、遠藤 浩子、井手 千恵子、  
永田 浩介、三宅 栄子、屋名池 倫子、三津間 洋子  
  
事務局：  
文化振興担当部長 嶋野聡、  
中央図書館長 枝村賢美、  
中央図書館館長補佐 内藤真澄、  
図書館管理グループ長 宮崎真理、  
図書館サービスグループ長 鈴木早苗、  
調査支援グループ長 川崎智子、  
資料・情報グループ長 鵜飼康生、  
天竜図書館長 笹竹由美子、春野図書館長 森下和之、  
佐久間図書館長 奥山享司、水窪図書館長 宇井智洋、  
龍山図書館長 鈴木忠、  
中央図書館 森田ひとみ主任、北村麗風、佐藤瑞起
- 4 傍聴者 0人(一般：0人、記者：0人)
- 5 議事内容 (1) 令和5年度事業報告について  
(2) 令和5年度図書館評価について  
(3) 令和6年度主要事業計画について  
(4) その他
- 6 会議録作成者 図書館管理グループ 北村麗風
- 7 記録の方法 発言者の要点記録
- 8 会議記録

<ul style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 会長あいさつ</li> <li>3 文化振興担当部長あいさつ</li> <li>4 議題</li> </ul>
--

(1) 令和5年度事業報告について

鈴木図書館サービスグループ長が説明  
◆資料1 令和5年度事業報告

質 問 意 見

三 津 間 委 員

(p 11)春野図書館と佐久間図書館での連携展示として、天竜高校との「天竜文学賞」があるが、小・中学校と比べてつながりを作ることが困難な高校との連携はどのように進めたのか。

鈴 木 G 長

天竜高校からお話をいただいたことから、この展示をすることにつながった。地元での連携が大切だと考え、天竜図書館に取りまとめをお願いし、いくつかの館で展示を行うこととなった。  
今後この良い機会を無駄にしないよう、活かしていこうと思っている。

三 津 間 委 員

高校から積極的に声をかけてくださるのはとても良いチャンスであったと思う。他の館にも広がっていくことを期待している。  
児童サービスの「パパ・ママ絵本講座」は連続して受ける必要があるものか。

鈴 木 G 長

連続で受けるのは困難であるという家庭が多いことが想定されるため、興味のある講座のみを受けるとしても可能としている。この数年はそのような内容で実施している。  
しかし、参加者がいない日もあることから、事前申し込み制であることで、参加へのハードルが高いと想定される。また、当該年度中に子どもが満2歳を迎える家庭の生活状況に対して、開催時期や方法等が合っていないのではないかと考え、検討の必要性を感じている。

三 津 間 委 員

参加がないということはハードルが高いということであると考え。  
「パパ・ママ絵本講座」と「おうちで読み聞かせを楽しもう」講座の狙いの違いを明らかにすべき。一方で、父親に焦点を当てるのは良いことであると感じる。  
父親が育休を取ることが十分理解される状況になってきているが、父親が子どもを連れて外に出かけるのはとても大変なことであるということを考え、参加のしやすさを重点的に意識すべきと考える。

鈴 木 G 長

数十年前よりも、父親の来館がとて増えていると感じており、父親が赤ちゃんを抱っこしている光景が当たり前になってきている。  
「おうちで読み聞かせを楽しもう」講座は、おはなし会の直後に行うようにしている。おはなし会に参加した親子が、続けて講座に参加していく姿も多く見られる。

三 宅 委 員

(p 4)資料数が増えているが、その他は減っている。レファレンス受付数が減っているのはネットの普及等により、自分で調べられるようになったことが原因にあると思うが、レファレンス受付数を増やす努力をしているのか。

川 崎 G 長

受付数が減ってはいるが、一件ごとの内容が濃くなっているように感じる。それは、自分でネットで調べたうえで、それでも分からなかった部分を質問する利用者が増えているということである。レファレンスの件数を増やすことと同時に、満足度を上げていくということも大切にしていきたい。

- 三宅委員 自分で調べたうえで、どうしてもわからないことは図書館に聞きに来る人が多いということでしょうか。
- 川崎G長 おっしゃる通り。今は情報が多すぎるため、信用のできる情報を選ぶことを手伝っている。
- 岡田委員 (p4)有効登録者数が減っているが、人口の減少よりも減るスピードが速いのではないかと。
- 鶴飼G長 人口減少も一つの要因としてあるが、有効期限を過ぎたが更新していない場合、有効な登録者数が減っていくため、有効期限を超えた利用が減っているということもある。明確な理由は分からない。
- 岡田委員 新たな登録を含めても、登録者が減っているということでしょうか。
- 鶴飼G長 おっしゃる通り。
- 補佐 絶対数でみると登録者数は減っている。加えて、浜松市の人口に対する割合でみても、20%だったのが18%台くらいに減少している。座席を予約するためにも登録が必要であるようなシステムにするなどし、登録が増えるように工夫をしている。
- 岡田委員 (p6)障がい者サービスに関する事業の「声のライブラリー」について、録音図書をテープとCDにわけているが、テープのものが故障した場合のような対応が考えられるか。
- 鈴木G長 テープが故障した場合は、マスターテープ(原本のようなもの)を焼き増しし対応している。
- 三宅委員 数年前からCDに焼き直しをしていない。現在は、マスターテープをコピーしたものを貸し出ししている。コピーしたものが故障したり、切れてしまったりした場合はマスターを貸し出すことも考えている。  
テープは、いつか劣化してしまうことが予想される。サピエを利用して他の自治体からCDやデータを取り寄せるという選択肢もある。
- 岡田委員 では、音源がなくなる可能性もあるのか。
- 三宅委員 おっしゃる通り。その場合は新たな録音図書を制作するという方法もある。
- 鈴木G長 「サピエ」とは、視覚等に障害がある方々に、点字・録音図書などの情報を提供するネットワークのことである。会員登録している加盟館は、「サピエ図書館」や他の加盟館から資料を借り受けたり、ダウンロードしてデータを必要な人へ提供できる。また、個人でサピエに登録している人は、ネットワークにアクセスして資料を利用することができる。
- 三宅委員 (p16)多文化サービス事業はどのように利用者に呼びかけているか。
- 鈴木G長 おもに図書館HP、中央図書館公式X(旧Twitter)、各図書館にチラシ、ポスターの配布、子育て広場にチラシ配布等で呼びかけている。
- 三宅委員 「外国語の通訳付きブックスタート」の実施日、期間の欄に「成立せず」と書いてあり気になったが、呼びかけはしっかりと行っているのが分かった。

(2) 令和5年度図書館評価について

宮崎図書館管理グループ長が説明

- ◆資料2 図書館評価について
- ◆資料3 図書館評価の方法について
- ◆資料4 令和5年度浜松市立図書館評価指標
- ◆資料5 浜松市立図書館評価（令和5年度）※自己評価

- 三津間委員 図書館業務アドバイザーとはどのような方がいるのか。
- 川崎 G 長 市史編さん業務に携わっていた鈴木正之先生などである。
- 遠藤委員 (p2)「いかす」では、不安があるであろう子育て中の親にとって、図書館は安心できる場所として存在していることがうかがえた。時間帯を配慮するなどの工夫をして不安が少しでも解消できれば良いと思う。  
(p4)「はぐくむ」では、ブックスタートの後に講座を設け、続けて参加しやすいように配慮をしている。もう一度聞きに来るのではなく、そのまま読み聞かせについてのお話などを聞くことができるようにしているのが良い。  
(p6)「つながる」では、地域の方の困ったことや、需要に図書館が役に立っていることがうかがえる。図書館が地域にとって良いイメージで利用されているのがとても良い。  
(p8)自己評価を見て、おはなし会の担当者への研修があり、おはなし会をする上での全員の方向性を共有しているのが良いと思った。
- 三宅委員 (p6)「業務支援カードの利用による貸出冊点数」がなぜ「つながる」に入っているのか。
- 鵜飼 G 長 業務支援カードとは、市役所の職員が業務上で使う際に借りるためのカードであり、政策立案支援の推進にあたるため。
- 岡田委員 外部評価用紙の記入の方法を再確認する。評価のところにABCを入れていただく。それぞれの自己評価に委員の考えたことを書いていただければ良い。
- 宮崎 G 長 ご意見なども忌憚なく、記入していただきたい。

(3) 令和6年度主要事業計画について

鈴木図書館サービスグループ長が説明  
◆資料6 令和6年度主要事業計画

- 三宅委員 図書館サービスの向上についての努力がとても伝わってきた。中学生ボランティアのチラシを子どもひとりひとりに届けられなかったのは、何か理由があるのか。
- 鈴木G長 前年度までは、教育委員会でまとめて配ってもらっていたが、部数が指定されるようになったため限られた枚数しか届けることができなかった。学校の生徒が見ることができる場所に置いてもらい、興味がある生徒のみチラシを取ってもらうシステムに変更した。  
その結果、生徒の目に入る機会が減り、応募が著しく減ったり、中学生ボランティア活動の受け入れを行わなくなったと勘違いされたりした。それを踏まえ、今年度は、中央図書館から市内各中学校へ直接出向き、全校生徒分のチラシを渡ししながら、生徒全員に配ってもらえるようにした。
- 三宅委員 学校から、ボランティアの有無について質問があったのか。
- 鈴木G長 市民や、議員から質問と要請があった。ボランティア募集をしているのに、していないと思わせてしまうなど、誤解を生んでしまったため、今年度は生徒全員の手に渡るようチラシ配布を行った。
- 岡田委員 今後も、職員がチラシを運んで配布という方法で続けていけるのか。図書館の職員の負担が増え、大変なのではないか。
- 鈴木G長 職員への負担が少なく、周知もできるより良い方法がないか指導主事を中心に検討中である。
- 岡田委員 何かの負担を減らすと、別の負担が増えるということになってしまっているように感じる。なにか改善策がある方はいるか。
- 屋名池委員 浜松市のPTA連絡会の広報誌の配布を学生協さんをお願いしており、同じように使えるのではないか。
- 鈴木G長 図書館が配布してもらえるなら、「美術館も」「博物館も」と増えてしまうことが予想されるため、難しそうである。
- 屋名池委員 中学生ボランティアはとても意味のある事業であるので、大切に考えてもらいたい。
- 鈴木G長 図書館利用から少し離れる時期が中学生高校生の時期だと思う。本は借りなくても、図書館に来てもらうだけでも意味はあるのではないかと考えている。
- 永田委員 さくら連絡網はどうか。
- 三津間委員 図書館が配布してもらえるなら、「美術館も」「博物館も」と増えてしまうことが予想されるため、難しそうである。  
チラシの制約もそうだが、1つの施設が許されると他の施設も同様に希望してしまい、收拾がつかなくなる可能性があるため、難しい。

- 屋名池委員 中高生対象の情報活用講座について、日程をずらすことで参加する人数を増やそうという工夫を感じる。具体的に何を教わることができるのか。
- 鈴木 G 長 外部の講師の方を招いて講義していただくものである。調べ学習講座の中高生バージョンのような難易度で、テーマや課題を設定して、それについて調べていく方法を学ぶ。また、様々な情報がある中で、信用できる情報を選ぶ方法を学ぶこともできる。担当職員から調査支援室の資料や利用の方法を教えてもらうこともできる。  
年度末の時期は対象の世代が忙しいことが予想されるため、夏休み期間中に開催時期を設定した。
- 三津間委員 令和7年度に向けての提案なのだが、調べ学習コンクールは小学生3年生～6年生が対象となっているが、中学生を対象に追加するのはどうか。情報活用講座で、将来役立つことを学べるのはとても良いが、目に見える成果を作るとより良いのではないか。コンクールで賞を取れたり、受賞作品を展示をしてもらえたりするなど、学生にとっては嬉しい成果になると思われる。  
審査員をどうするのかなどの問題もあるが、受講し、情報を得られるけれど、講座を受けることのメリットや楽しみが少ないと感じる。図書館の負担が増えることになるので、十分検討してほしい。
- 鈴木 G 長 ご提案として検討させていただく。
- 清水委員 課題解決支援に関する意見なのだが、大学生は図書館の利用率が低いという現状がある。調べ学習の課題を出しても、ネットを利用してレポートを書く学生が多い。本を探ことができ、本を読むことができる学生は多いが、本を使いこなすことができる学生が少ない。  
課題のレポートを作成する手伝いや、就活の手伝いとして大学生をターゲットにした講座を始めるのはどうか。調べ学習コンクールなどで賞を取ることが、就活をするうえで学生時代に力を入れたことになる。そのような機会を提供してあげられると良い。
- 鈴木 G 長 社会人の方から、情報活用講座について聞かれることが多い。興味を持っていただいている社会人や、学生をターゲットにすることも検討していきたい。
- 岡田委員 本に慣れていないということは大きな問題であると感じるので、本への入り口になれるようなものが増えると良い。
- 三津間委員 おでかけ絵本講座は浜松市立幼稚園等の施設のみで行っているのか。
- 鈴木 G 長 市立、私立、子育て支援ひろば、中学校、小学校、親子読書活動等も行っている。
- 三津間委員 子ども園も対象に入っているのか。また、どのようにPRをしているのか。
- 鈴木 G 長 子ども園も含め、すべての幼稚園保育園が対象に入っている。図書館のPRとしては、2年ほど前になるが、園長会でのチラシ配布や、幼児教育・保育課の連絡欄を通してのチラシの配布も行った。

9 会議録署名人 岡田 建志 会長

屋名池 倫子 委員

令和6年6月25日に開催された浜松市立図書館協議会の議事録の要点について、上記のとおり間違いがないことを確認した。

令和6年7月31日

署名 岡田 建志

署名 屋名池 倫子

